

決算説明資料 (2025年度)

2026年 6月 9日



2025年度 決算概要

2025年度 決算概要

- 当事業年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や設備投資の増加等を背景に、緩やかに回復しました。一方で、物価上昇の継続に加え、米国の通商政策の影響や中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格上昇への懸念、不安定な為替相場や金融資本市場の変動等、景気の先行きには依然として不透明感を残しております。
- このような事業環境の中、引き続き主要顧客である製造業からの製品受注が好調に推移したことに加え、一昨年4月に義務化された化学物質対策におけるリスクアセスメント対象物質に対する保護具の商品受注等も好調であり、売上高は過去最高額となる155億93百万円（前事業年度比10.5%増）となりました。
- 利益面では、材料費の増加や労務費の上昇等に加え、第二船引事業所第三工場の竣工に伴い、これまで埼玉事業所で製造していた吸収缶の生産ラインを移設したことに伴う費用負担等もあり、製品原価率は悪化しましたが、製品売上高の増加に加え、商品売上高も増加したこと等により、売上総利益は前事業年度比4.0%増の46億9百万円となりました。
- 販売費及び一般管理費は、積極的な営業活動に伴う広告宣伝費の増加等から販売費が増加したことに加え、人件費の上昇や一昨年9月に切り替えを行った新たな基幹システムに関わる費用負担等もあり一般管理費も増加したことから、全体としては前事業年度比5.7%増の35億55百万円となりました。
- 以上の結果、営業利益は前事業年度比1.4%減の10億54百万円、営業外費用として、第二船引事業所第三工場建設に係る資金調達を目的としたシンジケートローン手数料1億円を計上したこともあり、経常利益は15.0%減の9億33百万円、当期純利益は10.0%減の7億2百万円となりました。

2025年度 損益の状況

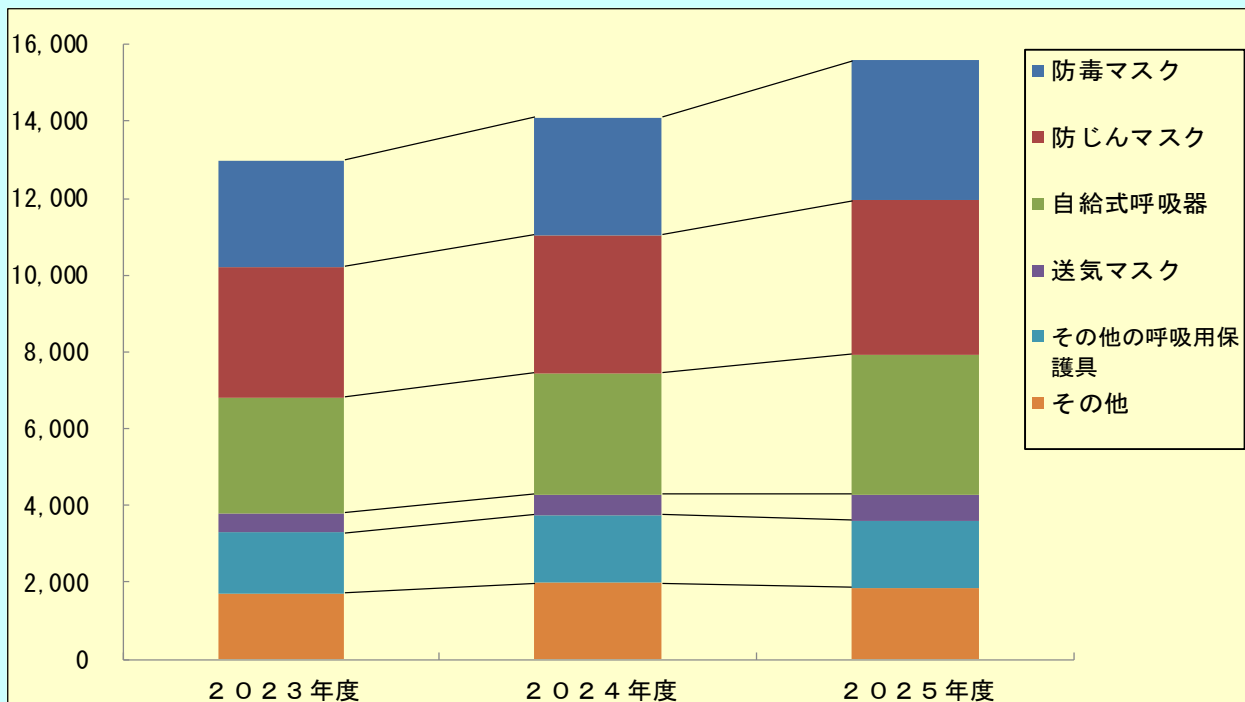
(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

| | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | | |
|------------|----------|----------|----------|---------|---------|
| | | | 実績 | 前々期比 増減 | 前期比 増減 |
| 売上高 | 12,995.4 | 14,112.6 | 15,593.5 | 2,598.1 | 1,480.9 |
| 製品製造原価 | 6,103.6 | 6,489.9 | 7,553.8 | 1,450.2 | 1,063.9 |
| 商品原価 | 2,888.9 | 3,191.4 | 3,429.8 | 540.8 | 238.4 |
| 売上原価 | 8,992.5 | 9,681.3 | 10,983.6 | 1,991.0 | 1,302.3 |
| 売上総利益 | 4,002.8 | 4,431.3 | 4,609.9 | 607.1 | 178.6 |
| 販売費及び一般管理費 | 3,218.0 | 3,362.0 | 3,555.1 | 337.1 | 193.1 |
| 営業利益 | 784.8 | 1,069.3 | 1,054.8 | 270.0 | △14.5 |
| 営業外収益 | 52.5 | 74.6 | 74.4 | 21.9 | △0.2 |
| 営業外費用 | 36.6 | 46.0 | 196.2 | 159.6 | 150.2 |
| 経常利益 | 800.7 | 1,097.9 | 933.0 | 132.3 | △164.9 |
| 特別利益 | — | 0.4 | — | — | △0.4 |
| 特別損失 | 3.9 | 66.0 | 22.5 | 18.6 | △43.5 |
| 税引前当期純利益 | 796.8 | 1,032.4 | 910.5 | 113.8 | △121.8 |
| 法人税等 | 218.0 | 230.8 | 195.2 | △22.8 | △35.6 |
| 法人税等調整額 | △5.3 | 21.0 | 13.2 | 18.4 | △7.8 |
| 当期純利益 | 584.1 | 780.6 | 702.2 | 118.1 | △78.4 |

セグメント別売上高推移

(単位：百万円)

当年度の特徴



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

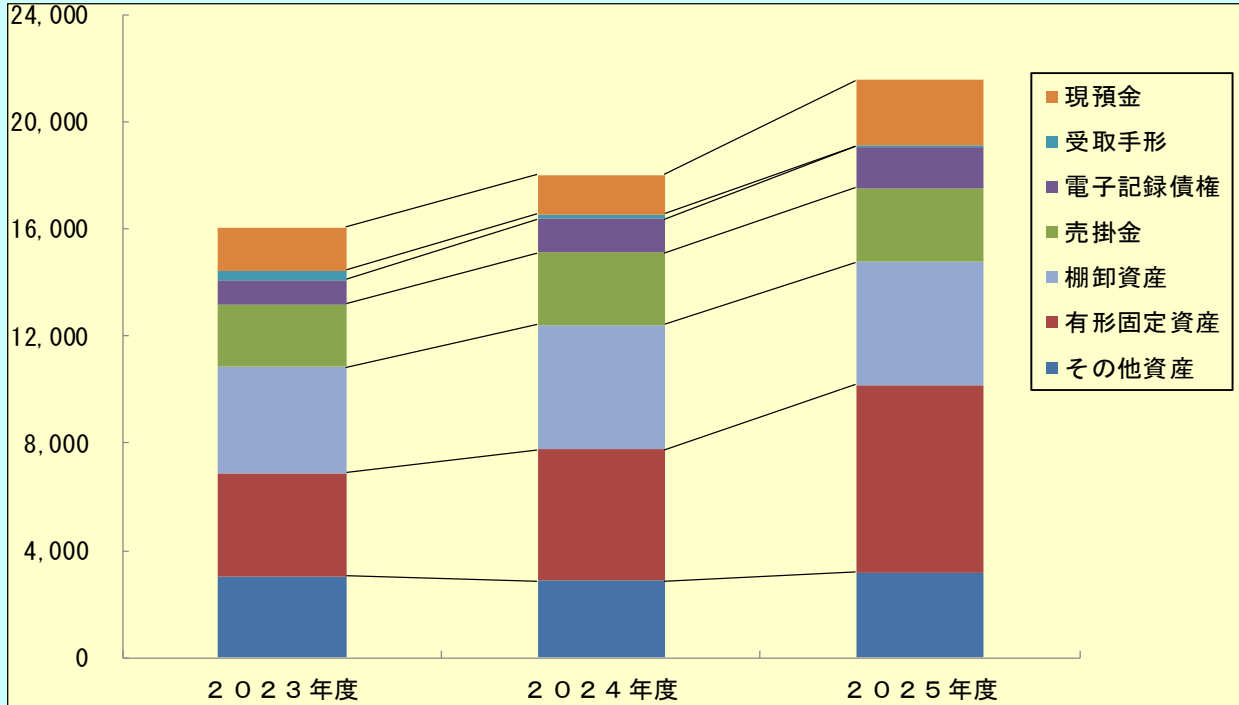
| | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
|------------|----------|----------|----------|
| 防毒マスク | 2,774.0 | 3,066.3 | 3,649.9 |
| 防じんマスク | 3,405.5 | 3,600.8 | 3,997.0 |
| 自給式呼吸器 | 3,003.7 | 3,148.5 | 3,656.8 |
| 送気マスク | 506.7 | 530.5 | 683.8 |
| その他の呼吸用保護具 | 1,595.9 | 1,789.9 | 1,754.8 |
| その他 | 1,709.5 | 1,976.6 | 1,851.3 |
| 合計 | 12,995.4 | 14,112.6 | 15,593.5 |

- ① 主要顧客である製造業からの製品受注が好調に推移したことに加え、一昨年4月に義務化された化学物質対策におけるリスクアセスメント対象物質に対する保護具の商品受注等も好調であり、売上高は過去最高額となる155億93百万円となりました。
- ② 主要品目別では、前年同期比で防毒マスクが5億84百万円、防じんマスクが3億96百万円、自給式呼吸器が5億8百万円、送気マスクは1億53百万円の増加となり、その他の呼吸用保護具はほぼ前年並みの売上でありました。
- ③ また、その他項目では、前年同期比で防護手袋は23百万円の増加となりましたが、保護帽・保護衣が84百万円、酸素計・ガス検知器が52百万円減少となったこと等により1億25百万円の減少となりました。

主要資産状況推移

(単位：百万円)

当年度の特徴



- ① 現預金は、前年度末比で9億70百万円の増加となりました。
- ② 売上債権（受取手形＋電子記録債権＋売掛金）は、売上高の増加を受け、前年度末比で2億52百万円の増加となりました。
- ③ 棚卸資産は、売上高の増加に伴い、前年度末比で73百万円の減少となりました。
- ④ 有形固定資産は、第二船引事業所第三工場の竣工に伴い、前年度末比で、建物が32億38百万円、構築物が3億28百万円増加となり、建設仮勘定が14億19百万円減少したこと等により、20億44百万円の増加となりました。

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

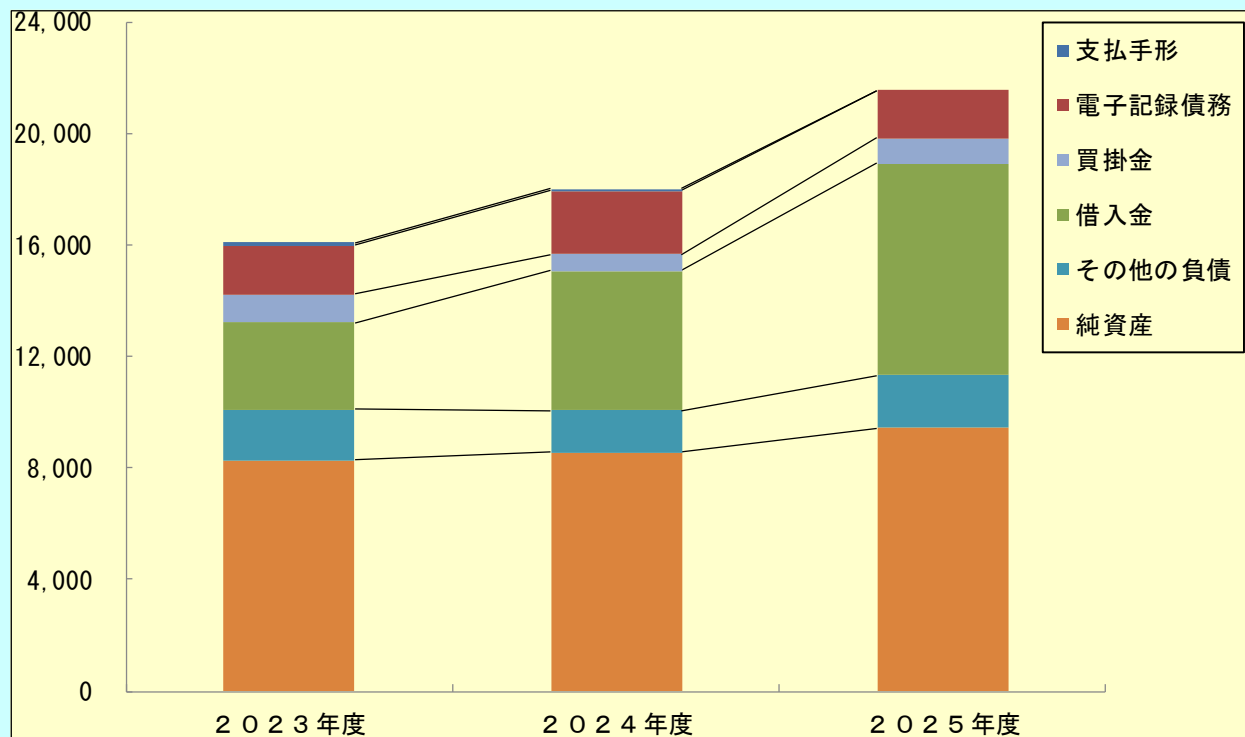
| | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
|--------|----------|----------|----------|
| 現預金 | 1,629.3 | 1,475.8 | 2,445.9 |
| 受取手形 | 345.1 | 180.0 | 60.7 |
| 電子記録債権 | 912.5 | 1,264.9 | 1,511.6 |
| 売掛金 | 2,369.5 | 2,673.9 | 2,798.7 |
| 棚卸資産 | 3,944.6 | 4,665.5 | 4,592.2 |
| 有形固定資産 | 3,843.4 | 4,942.6 | 6,986.5 |
| その他資産 | 3,052.2 | 2,843.1 | 3,193.4 |
| 資産合計 | 16,096.5 | 18,045.9 | 21,589.0 |

注：本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は、簿外のため含まれていません。

主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)

当年度の特徴



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

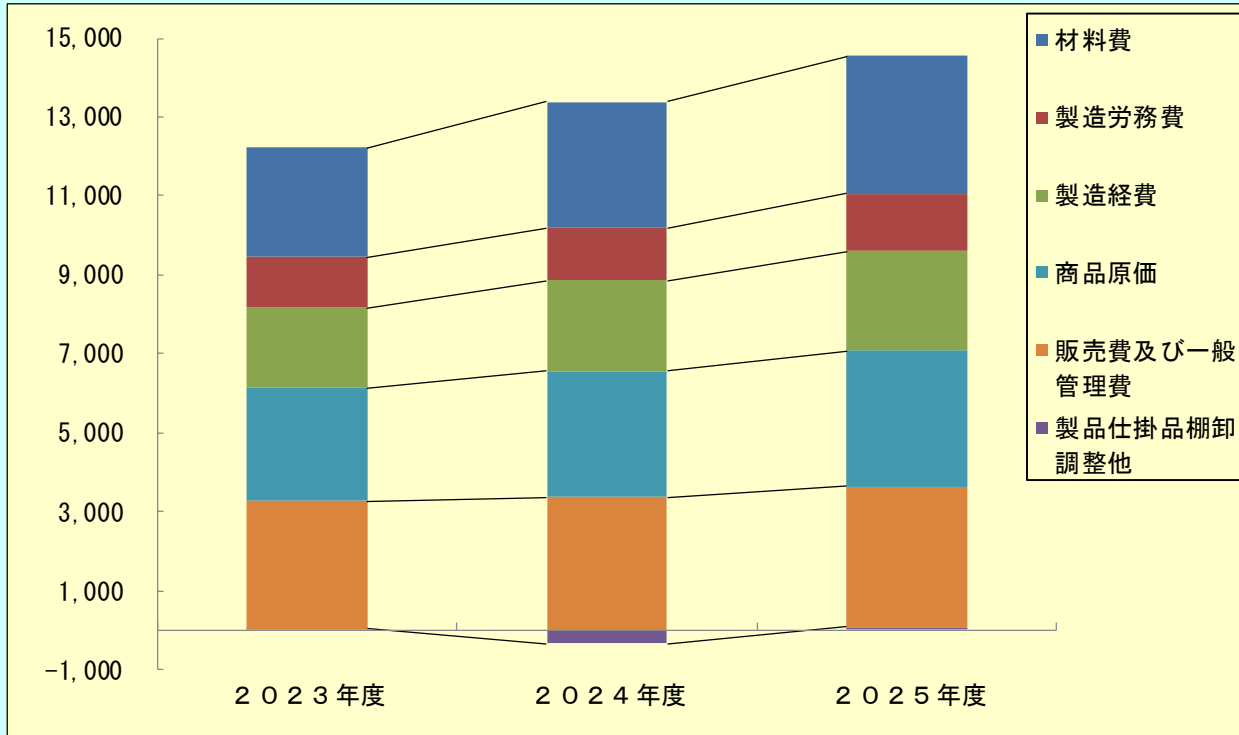
| | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
|----------|----------|----------|----------|
| 支払手形 | 103.8 | 89.4 | — |
| 電子記録債務 | 1,758.1 | 2,269.9 | 1,736.6 |
| 買掛金 | 1,009.1 | 583.4 | 892.6 |
| 借入金 | 3,110.0 | 5,030.0 | 7,626.5 |
| その他の負債 | 1,832.5 | 1,507.9 | 1,896.8 |
| 純資産 | 8,283.1 | 8,565.2 | 9,436.4 |
| 負債・純資産合計 | 16,096.5 | 18,045.9 | 21,589.0 |

- ① 支払債務（支払手形＋電子記録債務＋買掛金）は、前年度末比で3億13百万円の減少となりました。
- ② 借入金は、第二船引事業所第三工場建設に係る費用や増加運転資金の調達もあり、前年度末比で25億96百万円の増加となりました。
- ③ その他の負債は、未払金、繰延税金負債等が増加した結果、全体では前年度末比で3億89百万円増加しました。
- ④ 純資産は、前年度末比で繰越利益剰余金が6億4百万円、有価証券評価差額金が2億76百万円増加した結果、全体で8億71百万円の増加となりました。
- ⑤ 以上の結果、負債・純資産合計は前年度末比35億43百万円増加し、自己資本比率は43.7%となり、前年度末比では3.8%低下しています。

売上原価・販売管理費推移

(単位：百万円)

当年度の特徴



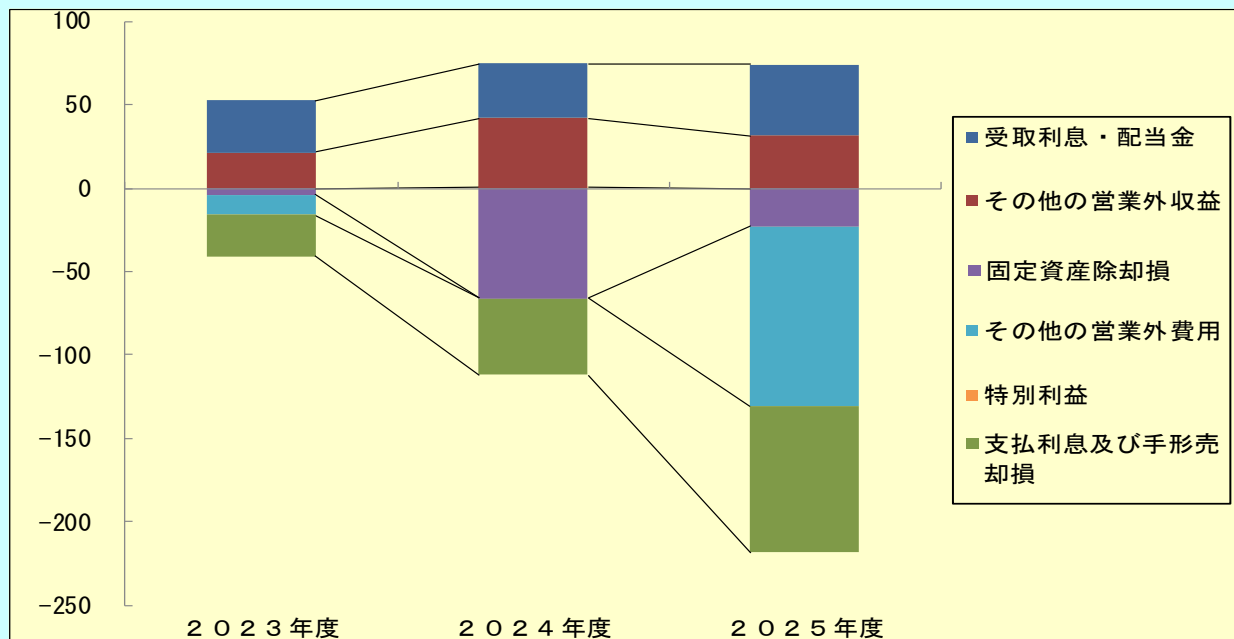
- ① 材料費は、製品売上高の増加や仕入価格高騰等の影響もあり、前年同期比で3億10百万円の増加となりました。製造労務費は、賃金引上げ等により前年同期比で97百万円の増加となりました。製造経費は、減価償却費等の増加により、前年同期比で2億29百万円の増加となりました。
- ② 商品原価は、商品売上高の増加に伴い前年同期比で2億38百万円の増加となりました。
- ③ 販売費及び一般管理費は、積極的な営業活動に伴う広告宣伝費の増加等から販売費が増加したことに加え、人件費の上昇や一昨年9月に切り替えを行った新たな基幹システムに関わる費用負担等もあり一般管理費も増加したことから、前年同期比で1億93百万円の増加となりました。

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

| | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
|------------|----------|----------|----------|
| 材料費 | 2,760.7 | 3,172.2 | 3,482.5 |
| 製造労務費 | 1,273.7 | 1,349.0 | 1,446.1 |
| 製造経費 | 2,024.5 | 2,300.7 | 2,529.9 |
| 製品仕掛品棚卸調整他 | 44.7 | △332.0 | 95.4 |
| 商品原価 | 2,888.9 | 3,191.4 | 3,429.8 |
| 販売費及び一般管理費 | 3,218.0 | 3,362.0 | 3,555.1 |
| 合計 | 12,210.6 | 13,043.3 | 14,538.6 |

営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

| | | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
|-------|-------------|--------|--------|---------|
| 営業外損益 | 受取利息・配当金 | 31.1 | 33.0 | 43.0 |
| | その他の営業外収益 | 21.4 | 41.7 | 31.4 |
| | 支払利息及び手形売却損 | △ 24.8 | △ 46.0 | △ 87.6 |
| | その他の営業外費用 | △ 11.9 | △ 0.0 | △ 108.6 |
| | 営業外損益合計 | 15.9 | 28.6 | △ 121.8 |
| 特別損益 | 特別利益 | — | 0.4 | — |
| | 固定資産除却損 | △ 3.9 | △ 66.0 | △ 22.5 |
| | 特別損益合計 | △ 3.9 | △ 65.6 | △ 22.5 |

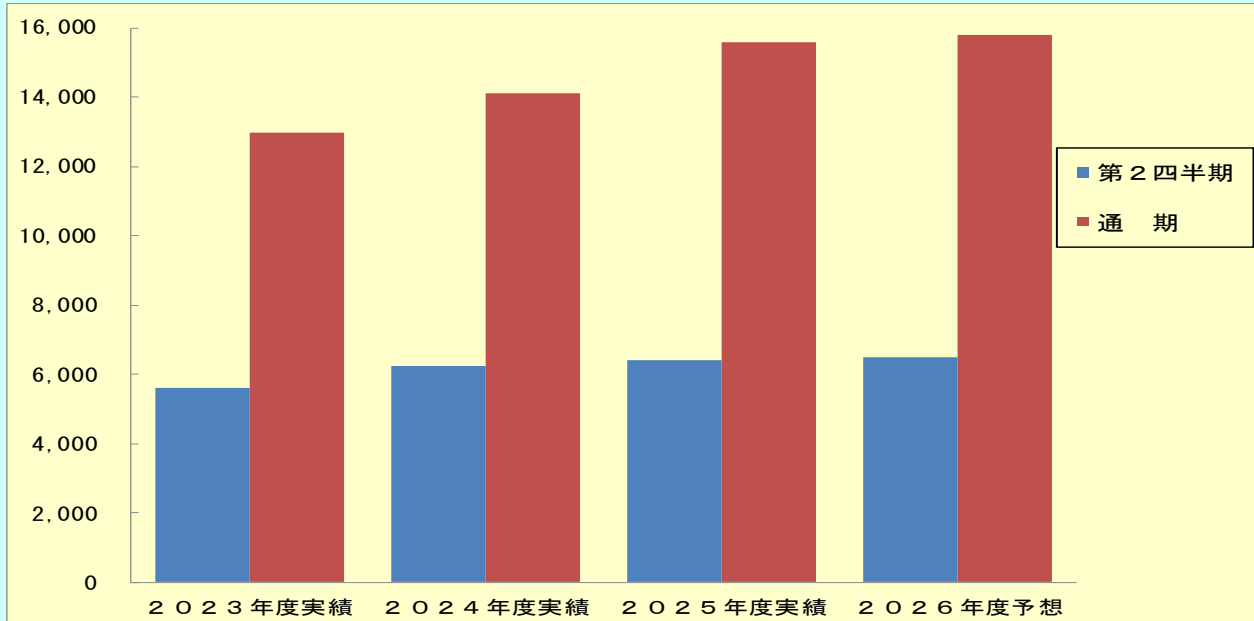
当年度の特徴

- ① 受取利息・配当金は、前年同期比で10百万円の増加となりました。
- ② その他の営業外収益は、受取手数料の減少等から、前年同期比で10百万円の減少となりました。
- ③ 支払利息及び手形売却損は、借入金が前年度末比で25億96百万円の増加となったことから、前年同期比で42百万円の増加となりました。
- ④ その他営業外費用は、第二船引事業所第三工場建設に係る資金調達を目的としたシンジケートローン手数料1億円を計上したこと等から、前年同期比で1億9百万円の増加となりました。

2026年度 業績予想

2026年度の売上予想

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

| | 2023年度実績 | 2024年度実績 | 2025年度実績 | 2026年度予想 |
|-------|----------|----------|----------|----------|
| 第2四半期 | 5,602 | 6,254 | 6,391 | 6,500 |
| 通期 | 12,995 | 14,113 | 15,593 | 15,800 |

予想のポイント

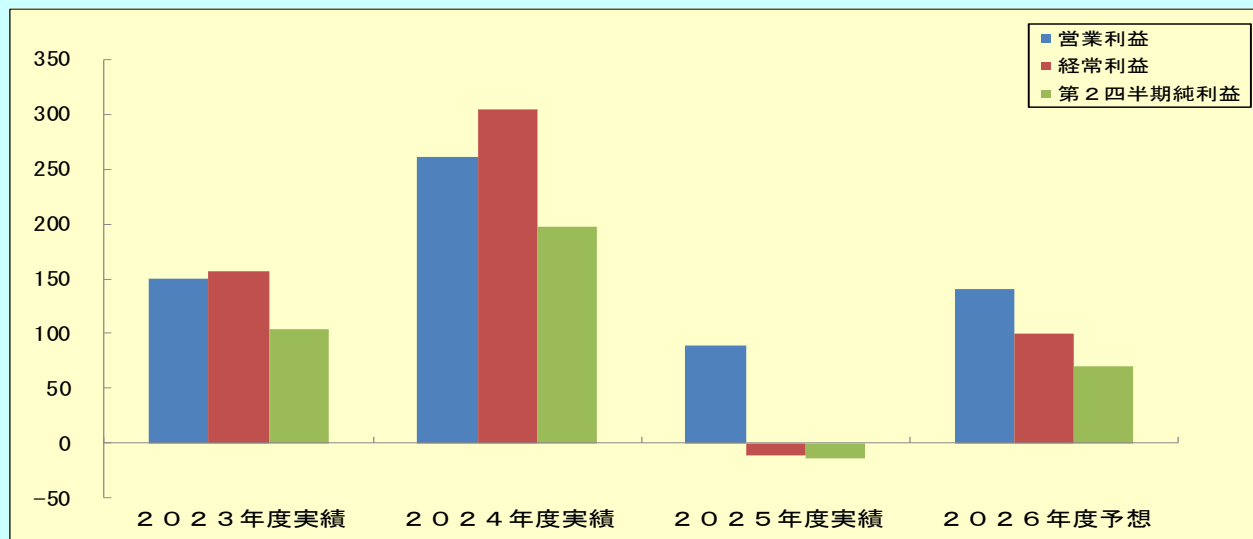
今後のわが国につきましては、米国の通商政策の影響や、緊迫化する中東情勢等の地政学的なリスク、不安定な為替相場等による世界的なインフレ・経済減速懸念等、経済の先行きは依然不透明であります。

また、懸念されているナフサ不足の影響についても不確実性が高い状況にあります。

そのような環境の中、呼吸用保護具は、感染症の流行や地震等の災害に対する様々な危機管理対策、各種社会インフラの整備改修等の需要等により、今後も一定以上の受注は維持するものと思われま。化学物質対策におけるリスクアセスメント対象物質については、今後も追加が控えており、保護具等の受注についても、一定以上を確保するものと思われま。

このような諸状況を総合的に勘案し、2026年度の通期売上高は、前年度比2億7百万円増加の158億円を見込んでおります。

2026年度 第2四半期の利益予想 (単位：百万円)



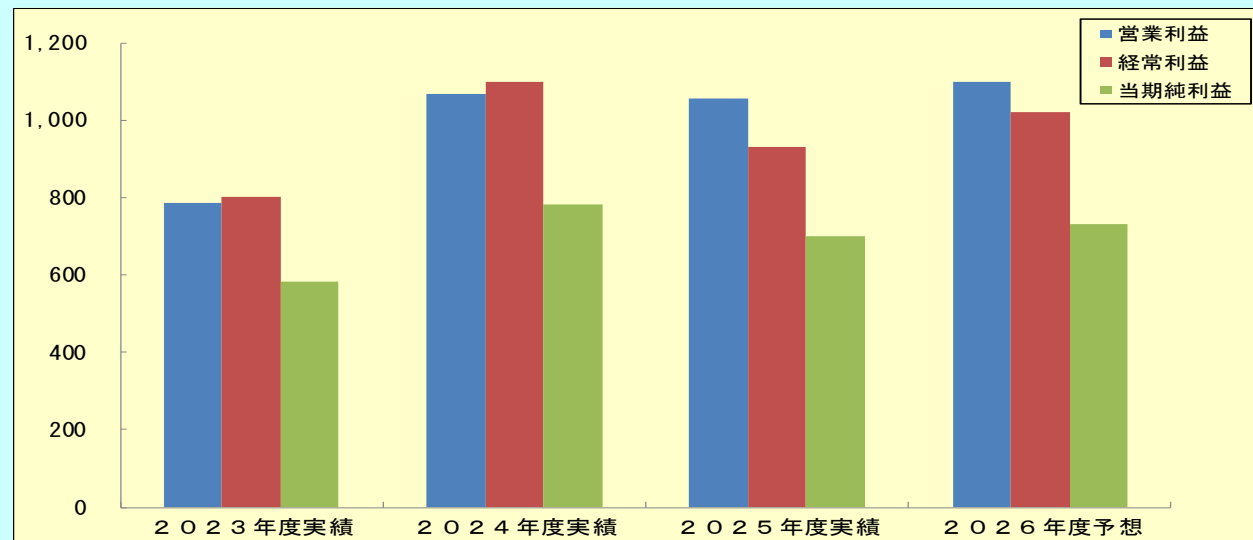
予想のポイント

2025年度第2四半期は、第二船引事業所第三工場の建築に関する先行費用を計上しています。2026年度は人件費の増加や資材・エネルギー価格の高騰等の影響もありますが、相応の営業利益、経常利益、第2四半期純利益を確保する計画としております。

(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

| | 2023年度実績 | 2024年度実績 | 2025年度実績 | 2026年度予想 |
|----------|----------|----------|----------|----------|
| 営業利益 | 150 | 261 | 89 | 140 |
| 経常利益 | 157 | 304 | △11 | 100 |
| 第2四半期純利益 | 104 | 198 | △14 | 70 |

2026年度 通期の利益予想 (単位：百万円)



2026年度通期は、世界的なインフレ・経済減速懸念やナフサ不足の影響など不確実性が高い状況にありますが、効率的な営業活動の推進と、人件費・諸経費の見直し等を進め、前年度以上の営業利益、経常利益、当期純利益の計上を見込んでおります。

(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

| | 2023年度実績 | 2024年度実績 | 2025年度実績 | 2026年度予想 |
|-------|----------|----------|----------|----------|
| 営業利益 | 785 | 1,069 | 1,055 | 1,100 |
| 経常利益 | 801 | 1,098 | 933 | 1,020 |
| 当期純利益 | 584 | 781 | 702 | 730 |